

氏名	奥 山 正 己		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位 授 与 番 号	甲 第 9 2 号		
学位 授 与 の 日 付	昭和38年 3 月31日		
学位 授 与 の 要 件	医学研究科社会医学系法医学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学 位 論 文 題 目	植物性プランクトン（珪藻）の検出による溺死の診断に関する実験的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 三上 芳雄	教授 橋 本 清	教授 武田 俊光

学 位 論 文 内 容 要 旨

法医学上における溺死の診断は通常その死体臓器および骨から植物性 プランクトン（珪藻）を検出しておこなわれる。しかしこれはあくまで溺死体がそのまま存在または土葬されて 存在する場合であって溺死体が火葬された場合あるいは長年月埋葬されてあった溺死体が 火葬された場合にははたして火葬骨から珪藻を検出して溺死の診断が可能であるか否かの実験はまったくなく、この点が解明できれば法医学上に益すること大なりと思考して著者は溺死ウサギを使用して実験をおこなった。その二編にわたる 実験結果は溺死体であれば 死体が高温で火葬されてもまた長年月埋葬された後に高温で火葬されてもその 火葬骨から珪藻は検出され、溺死の診断の可能であることを証明した。

論文審査の結果の要旨

奥山正己提出の「植物性プランクトン（珪藻）の検出による溺死の診断に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

著者は溺死体が火葬された場合又は長年月埋葬されてあった溺死体が火葬された場合、はたしてその火葬骨から珪藻を検出して溺死の診断が可能であるか否かをウサギを使用して実験したが、溺死体であれば死体が高温で火葬されても、また長年月埋葬された後に高温で火葬されても、その火葬骨から珪藻が検出され、溺死の診断が可能であることを立証した。これらの実験結果は法医学上の実際において寄与することきわめて大である。

以上の通り本論文はまったくの新知見であり、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有するものと認める。